



【資料1】

令和5年10月26日（木）

令和5年度第3回入間市廃棄物減量等推進審議会

令和5年度 第3回 入間市廃棄物減量等推進審議会 資料

令和5年10月26日

入間市 環境経済部

エコ・クリーン政策課



SDGs未来都市 入間市
Well-being City いるま
～健康と幸せを実感できる未来共創都市～



家庭ごみ収集回数の見直しについて

- ・地球温暖化対策に向けて
- ・入間市のごみ減量・資源化に関する取り組みと市民ができること
- ・今後のごみ減量・資源化の見込み（将来予測値）

【諮問内容】

家庭ごみの収集回数の見直しについては、現在の収集回数では、可燃ごみ週3回、不燃ごみ週1回など、近隣市に比べ、収集回数が多い状況です。

収集委託費のコスト削減の観点や、将来的なごみの減量を見据え、収集回数を見直しを検討したいと考えております。

地球温暖化対策に向けて〈その1〉



① 地球温暖化対策のため
主な温室効果ガスであるCO₂削減
収集回数を減らして、ごみ減量⇒CO₂削減

② 温暖化が及ぼす影響
気温の上昇、渇水被害、洪水被害、感染症を媒介する蚊が生息
範囲を拡大する、農作物への悪影響など

③ 収集回数を減らす目的

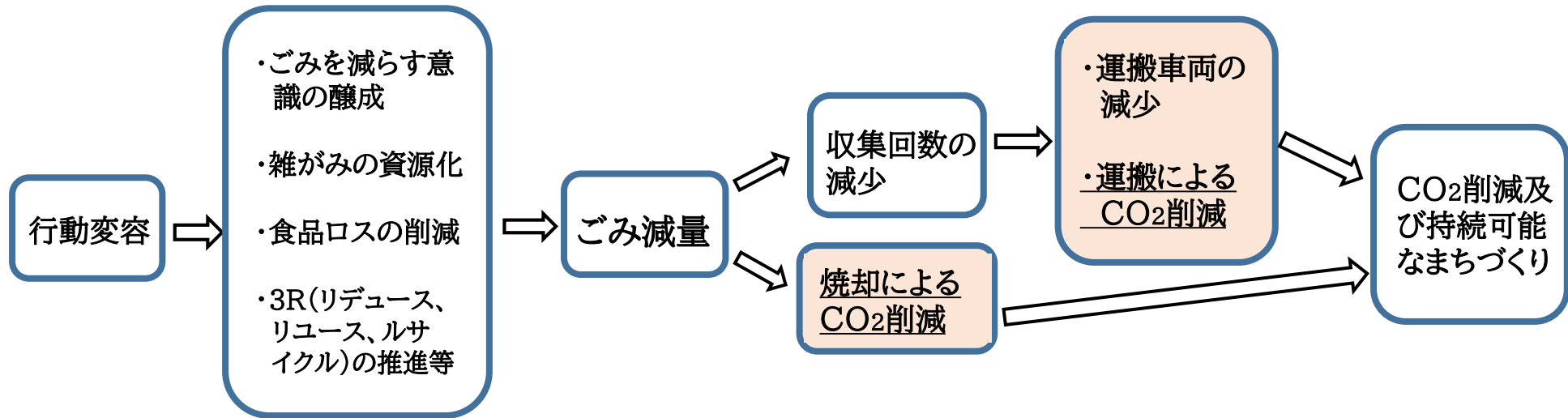
- ・ ごみの減量
- ・ 資源化の向上
- ・ 運搬車両の稼働台数及び焼却量の減によるCO₂の削減

【ごみを減らす理由】

ごみが減れば、ごみを焼却する二酸化炭素（CO₂）が減り、地球温暖化の対策に繋がる。CO₂削減に向けごみ減量・資源化の取り組みと併せて市民の協力及び意識等の行動変容が必要。

【CO₂削減のために】

行政：再生可能エネルギーの導入を加速、ごみ減量施策など
市民・事業者の協力、行動変容が必要



資源化の推進

一定の費用が必要

参考

・運搬によるCO₂排出量

可燃ごみ週3日収集の場合 67.1t-CO₂/年 総走行距離189,943km
週2日収集の場合 50.3t-CO₂/年 総走行距離142,457km

・焼却によるCO₂排出量

令和4年度 11,768t-CO₂/年 可燃ごみ排出量31,722t (実績値)
令和12年度 10,587t-CO₂/年 可燃ごみ排出量28,538t (予測値)

プラスチック・ビニール類 一括回収

硬いプラスチック製品をプラスチック類として一括回収し資源化

廃食油の資源化

家庭の天ぷら油等の廃食油を回収し資源化

ボトルtoボトル

回収ペットボトルの質の向上と水平リサイクル
※石油からペットボトルを作るより60%のCO₂削減になる

ごみ収集回数の見直し

可燃を週2回、全体の収集日を週5日へ変更しごみ減量

ごみ減量・資源化に向けた施策により、資源循環の推進でCO₂削減に取り組み、持続可能なまちづくりを目指します。

循環型社会 の 実現

樹木剪定枝の資源化

公園や街路樹の選定枝を回収し資源化

雑がみの回収促進

雑がみ回収用の紙袋のサンプルを作成、地区センターなどで配布し資源化

焼却灰・破碎残渣の資源化

焼却灰に加えて、破碎残渣についても委託により資源化

食品ロス削減

市内スーパーやコンビニによる「てまえどり」の推進
市内小中学校の給食残渣を堆肥化

補助金の活用

生ごみ処理機器購入費補助金、資源再利用奨励補助金

今後のごみ減量・資源化の見込み（将来予測値）



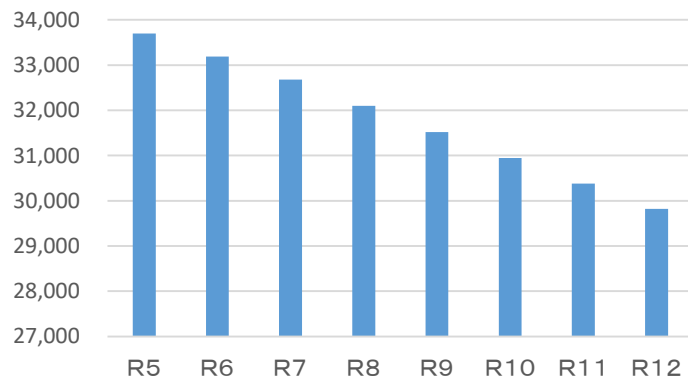
入間市一般廃棄物処理基本計画から将来予測値を抜粋したもの。

数値は、ごみ減量・資源化の取り組みを考慮した数値。

令和3年度、令和4年度の家ごみ量の実績値は、計画の予測値より下回っている。

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	合計
家庭ごみ量(t)	33,699	33,187	32,679	32,095	31,517	30,944	30,376	29,822	—
前年との増減量(t)	—	-512	-508	-584	-578	-573	-568	-554	-3,877
前年との比較	—	-1.52%	-1.53%	-1.79%	-1.80%	-1.82%	-1.84%	-1.82%	—
1人1日当たりの排出量(g)資源含まず	512	504	495	487	478	469	461	455	—
前年との増減量(t)	—	-8	-9	-8	-9	-9	-8	-6	—

家庭ごみ量(t)



ごみ収集車 1台 = 2tのごみを運搬
500tのごみ量 = 250台に相当



さらに市民一人ひとりが減量に取り組むことにより、減量が進む。

平成30年10月から可燃ごみを週3回から週2回へ変更

③ 家庭から出る可燃ごみが 近隣都市と比較して多い

1人1日あたりの排出量は40~60グラム多い

家庭から出る可燃ごみ1人1日あたりの排出量は523グラム(自己搬入分を含まない)です。分別区分は異なりますが、千葉県平均465グラム、中核市平均481グラムと比較すると、約40~60グラム多い状況です(26年度一般廃棄物処理実態調査結果)。

※60gは卵L玉 1個分です。

紙類と生ごみの減量が効果的

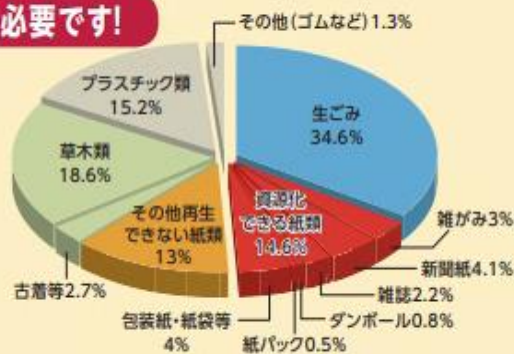
家庭から出る可燃ごみの種類別割合を見ると紙類(27.6パーセント)および生ごみ(34.6パーセント)が多い傾向にあることから、この2つの減量を進める必要があります。

資源化できる紙類(14.6パーセント)のうち、半分を資源化することで、約9000トンの減量、3億3000万円の経費削減効果が見込めます。(減量の取り組みは4面へ)

家庭から出る可燃ごみの減量が必要です!



▲収集車の搬入風景(北部清掃工場)



家庭から出る可燃ごみの種類別割合(夏期)

市民の皆さんの理解のうえ、先行して実施を検討する事業

家庭から出る可燃ごみの収集回数の見直し

市の家庭から出る可燃ごみの収集を週3回から、週2回に見直すことにより、ごみの減量および資源化に対する市民意識の高まりや環境負荷の低減などが期待できます。全国的に見ても、家庭から出る可燃ごみ1人1日当たりの排出量が同じ程度の自治体では、80パーセントが週2回の収集で、関東圏の政令市・中核市では、本市以外は全て実施しています。

出典:「広報ふなばし」より抜粋

(参考)近隣市との1人1日当たりのごみ排出量の比較



入間市の1人1日あたりの排出量は、令和元年から令和3年で若干の減少はあるものの、近隣市及び県平均より多くなっている。

人口規模が同程度の狭山市と比べ、58gから74g多くなっている。

近隣市との1人1日当たりの排出量比較

市名	令和元年度		令和2年度		令和3年度		可燃ごみ収集回数
	人口	1人1日当たりの排出量(g)	人口	1人1日当たりの排出量(g)	人口	1人1日当たりの排出量(g)	
入間市	147,986	544	147,312	557	146,419	537	3回
所沢市	344,331	474	344,317	475	343,867	460	2回
飯能市	79,343	523	79,246	547	78,987	523	2回
狭山市	150,901	470	150,049	497	149,670	479	2回
	県平均	528	県平均	544	県平均	526	

※ 1人1日当たりの排出量は、家庭から出されるごみのうち、資源ごみは含まない。

出典：一般廃棄物処理事業の概要(埼玉県)